

2学期がはじまりました

はやいもので夏休みが終わりました。みなさん充実した夏休みになりましたか。学校という空間では学べないことが学べる時間とも捉えられる夏休み。「学校でみんなで過ごすということもいいものだな。」とのんびり思うこともありましたが？

2学期は体育大会があります。3年生のリーダーは夏休み中に集まりダンスをはじめ、様々なことを進めていました。話し合いの中で「これでみんなが楽しめるかな」といった視点が見られました。自分達だけでなく、学校全体の生徒のことを考えながら物事を決めていこうとするリーダーの姿は「さすが3年生」と感じました。2学期も頑張っていきましょう。

宿題について



生徒アンケート、保護者アンケートの結果、そしてわたしたちが1学期に生徒と接する中で感じている課題として共通するものは「家庭学習」の部分だと思っています。学校だけではなく、家庭でしっかりと学習することで学力が身についていくと思います。生活習慣も含め、人が大きく成長するために必要なことは「習慣」だと思っています。

2学期は宿題について、以下のように実施します。

宿題の『見える化』

『見える化』…クラスルームに載せるスプレッドシートに、日々の宿題を教科係が入力します。

生徒自身、保護者の方、全教職員がいつでも確認できます。

保護者の方はこどもさんとグーグルのアカウントを共有していただくことでクラスルームを見ることがができますので、おうちで話をしてみてください。

引き続き、学校では効果的な宿題の在り方（質と量）について考えていきます。ご家庭においても、声掛けの方よろしくお願いします。また、宿題についてご意見等ありましたら、駅家中学校まで連絡をください。

ペーパーレスの取組について

2学期より環境保全・紙や印刷コストの削減・業務改善の一環として駅家中学校では、ペーパーレスの取組を進めます。

いままで紙で配布していたものについて、保護者の方へはすぐーるで配信し、生徒へはクラスルームで配信する形で進めます。また、全てを電子送付するわけではなく、意図的に紙で配布させってもらうものもありますのでおしりおきください。よろしく願いいたします。

宿題についても、ペーパーレスの取組についても、生徒がタブレットを適切に管理できる力が必要です。日々タブレットが手元にあり、しっかりと充電してあることが大切です。学校でも声かけ、指導を行っていきます。



【校長のひとり言】

先日、私が教員なりたてのときの教頭先生が亡くなったと聞きました。後に校長先生になられてからもご一緒させていただき、また私的なお願いもさせていただくなど、教員としてのイロハに気付かせて下さった（大体が答えを言われない）方でした。2，3年前にお会いしたのが最期となってしまいました。93歳でした。

40年近くたっても忘れられない教頭先生との会話。教員となった4月1日の昼休憩中、右も左もわからない（好？）青年に、「菅田さん、この花を見て1時間しゃべれるか？」と。体育会系の私は先輩から言われると「無理」とか「できない」なんて口が裂けても言えない体質になっており「1分も持たないかもしれません」と答えるとニコニコ笑いながらどこかへ行かれました。「何が言いたかったのだろう・・・」「話せるようになれということか？話せるわけじゃないじゃん」と心の中でつぶやいていました。

このように、問を投げかけられても答えはいつもおっしゃられない方で、いつも悶々とさせられていました。

更に…当時は夏休み前に「地域懇談会」というものを学校が行っていました。1年目の私でも担当地域があり、そこで学校からの説明やらお願いやら要望やら、結構大変だった記憶があります。

ある時その大変だった話を職員室でしていた時、教頭先生が「子どもは親離れするのに、親が子離れできんのんよなあ、わが子も他人よ」とつぶやかれました。いつもの「なぞかけ」的に話され、経験の浅い、また当時親でもない私は「またじゃあ」と思いながらそのことについて他の先生と話をしたんじゃないかと思えます。

さほど本気で聞いていたわけではないのですが、なぜかずーっと今でもその言葉が耳に残っていて、何かの拍子に思い出す言葉の一つでした。

今では、「親離れ」の意味は何となく理解できるのですが、「子離れ」とは？？？

皆さんは「子離れ」とはどんなことを言うと思われますか？

子育て（したとはいえないのですが）が終わってしまい、振り返ってみてもなかなか確信持てるものがない私ですが、いろんな捉えがあると思います。私なりに思っているのは、何に手をかけ、何に手をかけないか、いつまで手をかけ、いつどのように手放す（受け入れる）か、手をかけない事や、手放すときがその時なのかなあと思っています。（決してほったらかしにするという意味ではありません）

我が子の将来の幸せを願わない親はいないと思いますが、その子の将来の幸せは兄弟姉妹でも違うはずですよ。当然、私たち親や大人とも違うはずです。（似たところはあるかもしれませんが比較しないこと）

子どもは年齢とともに単純から複雑に思考し、時には自分勝手に生意気な「意志」を持ち始め、いろんな方法で主張するようになり、兄弟姉妹でも全く違う価値観を持ち始めます。これが「成長」なんじゃないかと思えます。ただし、時として間違った価値観を持っていることもあり、修正してやらなければならないこともあります。これも成長の過程です。親となって（親らしいことはできていないのですが…）我が子も年齢を重ねるにつれ、勝手な言い分「生意気に…」と思っていたことが、少し客観的に捉えると「一理ある」こともあり、いつまでも「子ども扱い」してしまっていた事を思い出しました。

中学生の時期はまだまだ身勝手な論調で意思表示をしているなあと思うことは少なくありませんが、それは「親離れ」の途中と言えるのかもしれません。

もし、お暇な時間があれば「子離れ」についてちょっと考えてみてはいかがでしょうか。もし、お暇な時間があれば、校長室で一緒に話をしてもらってもかまいません。

私も勉強になると思っています。

30数年前に自分がこんな文章を書くとは1mmも思っていないでした。子育てなどのお悩みがあれば遠慮なくご相談ください。一緒に考えましょう。

最後に教頭先生が亡くなられた1か月前に当時の校長先生が亡くなられていたようです。どちらも葬儀に出席できませんでした。ご冥福を祈ります。合掌。